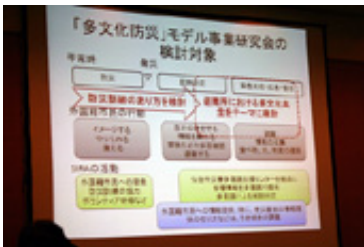




シンポジウム会場の仙台市・仙台国際センターに全国から市民や多文化防災に関わる関係者が100名余り参加
Photo by H. Takahashi (以下同様)



スライドに映し出された「多文化防災モデル事業研究会の検討対象」フローチャート図



写真上から、基調講演を行う地元ラジオ局 (Date fm) パーソナリティの板橋恵子さん。パネルトークの様子。パネルトークコーディネーターの仙台国際交流協会・佐藤 剛さん (左) と仙台市立三条中学校・朝間康子さん。下・東北大学災害制御研究センター・柴山明寛さん (正面・右)

【東日本大震災の外国人支援について考える】

■ 「多文化防災」の新たな展望 シンポジウム開催 ～仙台

《Bosai Plus》特約リポーター・高橋英彦/防災士

東日本大震災から11カ月が経過した被災地では、次の災害に備えようと教訓を活かした取組みが多方面で行われている。災害時の外国人支援を考えるシンポジウム「多文化防災の新たな展望～東日本大震災での外国人支援を考える～」が2月12日、仙台市青葉区の仙台国際センターで行われた。このシンポジウムは仙台国際交流協会が主催し、全国から市民や多文化防災に関わる関係者ら100名余りが参加した。

この中で、地元ラジオパーソナリティの板橋恵子さんが、「災害時に生かされた『顔の見える関係』——ラジオでの多言語情報提供」と題した基調講演を行った。板橋さんは、「7年ほど前から想定宮城県沖地震に備えた防災啓蒙番組を制作、放送を担当、番組の中で外国籍市民の方々に協力を得ながら多言語による防災情報も提供してきた。番組と連携していた仙台国際交流協会との関係があったからこそ、東日本大震災直後の早い段階から災害やライフライン情報を英語、中国語、韓国語などでも放送することが出来た。これは多くの外国籍市民の方々から大きな反響があった。災害時のラジオが果たす役割は大きく、共助の大切さを強く感じた」と災害時の情報発信は多言語による放送も重要であることを強調した。

シンポジウムでは「多文化の視点から見るこれからの防災」をテーマとしたパネルトークも行われた。

この中で震災時に避難所運営に関わった仙台市立三条中学校教諭の朝間康子さんは、「避難所となった武道館と体育館には地域の住民とともに外国人の姿があったが、改めてその多さを実感した。学生に依頼し日本語と英語で情報提供や炊き出しなどのアナウンスをした」と震災時を振り返り、多文化防災の展望の必要性を訴えた。

また、仙台市青葉区片平地区連合町内会の今野均さんは、「震災時からのドキュメントを23ページの報告書という形でまとめ、仙台市に提出した。この報告書の中に外国人支援についても掲載した。震災後、片平小学校が避難所となり、1000人以上が集まった。そのほとんどは帰宅困難者で地域の住民は1割ほどだった。短期間であればそれほど問題にはならないが、避難所において外国籍市民はお客であり続け、炊き出しを食べて眠るだけなので、長期間にわたるのであれば避難所を別にして運営することも検討課題だ」とそれぞれの国の文化や風習があり、同じ国籍同士の人たちが集まってしまう傾向があると指摘した。

さらに今野さんは「これまで行ってきた地域の防災訓練に外国籍市民の方々にも呼び掛け参加してもらったが、さまざまな体験や炊き出しなど、訓練自体がお客さん扱いだったのが問題だ。災害時もしっかり対応できるようにすべきだ」と外国籍市民も地域の住民の一員として活動を行う必要性を訴えた。

コメンテーターを務めた東北大学災害制御研究センターの柴山明寛さんは、「このシンポジウムで確認したことは、可能性が指摘されているマグニチュード8から7クラスの東日本大震災の余震や東海・東南海地震といった次の災害の発生時に役立つと思う。東北大学には多くの留学生がおり、震災時の安否確認などは大変だったが、SNSを使い何とか確認できた」と震災当時の外国人留学生の対応状況について報告したうえで、「外国人がボランティア活動をするためには、情報が必要だ。情報を与えることによって避難所運営などに参加できるのではないか」と外国籍市民に対する情報提供の重要性を強調した。

コーディネーターで仙台国際交流協会の佐藤 剛さんは、「外国人も支援の担い手として参加してもらい仕組みづくりが課題だ。平時から外国人もゲーム感覚で参加できる防災訓練の実施、顔の見える関係づくり、日本人も外国人もともに話せる環境づくりが大切ではないか」と指摘、多文化防災コーディネーターの育成が急務であることを提案し、パネルトークを締めくくった。

災害時要援護者といわれる外国籍市民だが、今回のような未曾有の災害時に関しては状況が厳しく、日本において安心や情報を求めるためには平時から地域との連携や顔の見える関係づくりに努力することが重要のようだ。

[>>仙台国際交流協会](#)

[>>災害時要援護者について\(内閣府防災情報\)](#)

*《Bosai Plus》No. 8(2011年12月15日号)、No.13(2011年3月1日号)で「災害時の外国人支援」を取り上げています。入手ご希望の方は本紙までお問い合わせください。